

## 特集：北陸新幹線の開業と交通まちづくり

「新たな成長期を迎えた富山地鉄・万葉線」

## 北陸新幹線開業と

富山県地域交通  
ネットワークの拡充

平成27年3月、北陸新幹線（長野ー金沢間）が開業した。

東京と北陸が2時間台で結ばれ、日帰り圏内になったことで、多くの観光客が来訪、「北陸ブーム」が続いている。

そうした中、富山県では、北陸新幹線開業後の交通環境の変化等を踏まえ、今後10年間の富山県の地域交通の目標や基本的方向性を示す

「富山県地域交通ビジョン」を策定、地域創生の実現を目指している。

地域交通ネットワークの拡充と利用促進を掲げる県の取り組みについて、

酒井武史富山県理事・総合交通政策室長にお話を伺った。

文●茶木 環／撮影●織本知之



## 新幹線開業による交通環境の変化

——北陸新幹線開業により、富山県への入込数が大きく伸びています。

**酒井** 新幹線の開業効果は非常に大きいですね。県では昨年、平日と休日に、鉄軌道の主要駅と停留場、富山きときと空港で乗降客数の調査を実施しました。新幹線駅では、富山駅、新高岡駅、黒部宇奈月温泉駅の順に乗降客が多く、各駅とも休日利用が多くなっています。新幹線開業前と正確に比較することはできませんが、JRの発表では、特急時代と比べると、糸魚川と上越妙高間の旅客流動はおよそ3倍に増えています。

また、平日・休日ともに首都圏からの来県者がおよそ6割を占めています。が、もともと富山県は文化交流やビジネスなどで関西圏とのつながりが深く、関西からの来県者も多く見られるほか、東北や九州など全国からの来県により県内の交流人口が増加しています。

——新幹線開業による交流人口の増加



富山県理事 総合交通政策室長

酒井武史

Takeshi SAKAI

は、地域交通にも波及していますか。

**酒井** 地域交通の利用者数も増加しています。県民の利用のほか、富山県に來られた方々が、新幹線と接続する地域交通を利用して各所へ移動され、全体で5、6%の伸びとなっています。例えば、新幹線開業で並行在来線として誕生した第3セクター「あいの風とやま鉄道」は、通勤・通学利用がメインになると予想していましたが、定期外でもかなり利用されています。

住民が生活路線として利用する地域交通が、県外からの来訪者にとっては新幹線などの2次交通として重要な役割を果たしています。

——県内の交通環境が変化する中で、県としてはどのような考えをお持ちですか。

**酒井** 県民はもとより、来訪者に地域交通をさらに利用していただくためには、各交通機関の利便性はもちろんですが、交通事業者が連携して交通ネットワークを充実させることが重要だと考えています。県内交通全体の利便性を高め、誰に



## 特集：北陸新幹線の開業と交通まちづくり

[新たな成長期を迎えた富山地鉄・万葉線]



とつても使い勝手のいい交通ネットワークを構築するとともに、利用促進に努める。そうした取り組みによって地域交通の活性化を図っていきたいと考えています。

富山地方鉄道（富山地鉄）の市内電車が富山駅に、そして万葉線が高岡駅に乗り入れているように、複数の異なる交通機関が主要駅などに集約されて、スムーズな接続が実現すれば、県内移動の利便性が格段に向上します。新幹線開業に加え、各地域の取り組みにより、地域交通を利用して移動する人の幅が広がっています。今後も新たな流動が生まれる可能性に期待したいと考えています。

——富山市や高岡市ではまちづくりの環境として公共交通を整備し、市民の生活路線の基盤を整えた上で、観光にもつなげたいとしています。

**酒井** 富山市や高岡市のほかにも、JR西日本の城端線・氷見線沿線では沿線市が連携して交通サービスの充実に取り組んでおり、県東部でもまちづくりの中で地域交通の充実に取り組んでいるという機運が高まっています。各市町村でこうした動きが活発化することで、県全体の交通ネットワークが充実していくと思います。

生活路線として公共交通の活性化を考える場合、それぞれの交通機関を単体で見のではなく、まちという面的な広がりの中で捉え、活かしていく視点が必要です。地域住民にいかにご利用されるかが最も大事になってきます。県全体の交

通ネットワークの充実や利用促進に向け、県としても必要なサポートを行っていきたいと考えています。

### 交通ネットワークを活用した観光周遊

——富山県では「鉄軌道王国とやま」として、多種多様な路線による魅力をアピールされています。

**酒井** 数え方にもよりますが、富山県には13路線の鉄軌道が走っています。これだけ多種多様な路線を維持している県はなかなかないと思っています。

観光列車も富山地鉄の「アルプスエクスプレス」や「ダブルデッカーエクスプレス」、JR西日本の「ベル・モントーニュ・エ・メール」など多彩で、黒部峡谷鉄道ではトロッコ列車も走行しています。立山黒部アルペンルートもケーブルカーやロープウェーなどさまざまな「乗り物」を乗り継ぐことが魅力の一つとなっています。LRTの富山ライトレールや、万葉線の「ドラえもん ترام」も観光客に人気です。こうしたバリエーション豊かな鉄軌道を富山県の観光資源として積極的に発信していこうとスタートさせたのが「鉄軌道王国とやま」です。

もちろん、「鉄軌道王国」と銘打つからには、乗り継ぎの利便性向上や新たな商品開発など、交通事業者の連携が欠かせません。そこで、県の主導で交通事業者の皆さんにお集まりいただき、「鉄軌道王国とやま」をコンセプトに、さまざまな施策について協議しています。





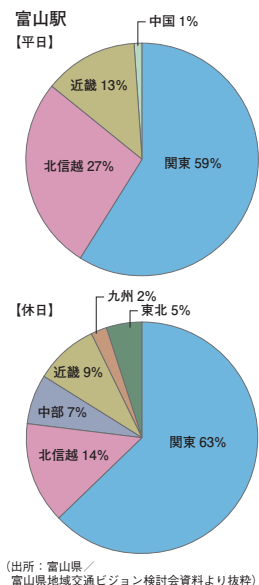
1定期外の利用が伸びているあいの風とやま鉄道2海岸線走るJR西日本の観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール」3「トロッコ電車」に乗って絶景が楽しめる黒部峡谷鉄道4富山県の観光を大きく盛り立てる北陸新幹線

## ■富山県内の主要駅・空港の乗降客数の状況

| 調査箇所名     |               | 乗降客数・利用者数（人） |        |
|-----------|---------------|--------------|--------|
|           |               | 平日           | 休日     |
| 北陸新幹線     | 富山駅           | 12,268       | 16,031 |
|           | 新高岡駅          | 3,460        | 5,730  |
|           | 黒部宇奈月温泉駅      | 2,280        | 3,126  |
| あいの風とやま鉄道 | 富山駅           | 23,348       | 13,338 |
|           | 高岡駅           | 11,698       | 7,568  |
|           | 小杉駅           | 5,316        | 2,586  |
|           | 魚津駅           | 3,799        | 1,712  |
| 富山地方鉄道    | 電鉄富山駅         | 8,791        | 4,525  |
|           | 立山駅           | 593          | 263    |
|           | 宇奈月温泉駅        | 1,329        | 1,488  |
| JR西日本     | 砺波駅           | 1,971        | 1,034  |
|           | 氷見駅           | 1,529        | 860    |
|           | 越中八尾駅         | 1,560        | 653    |
| 軌道        | 富山地鉄市内軌道線・富山駅 | 4,795        | 5,047  |
|           | 富山ライトレール・富山駅北 | 3,505        | 2,555  |
|           | 万葉線・高岡駅       | 1,036        | 841    |
| 富山きとときと空港 |               | 2,069        | 2,161  |

※調査日は平日が平成27年10月27日（火）、休日が同年11月15日（日）  
（出所：富山県／富山県地域交通ビジョン検討会資料より抜粋）

## ■富山県外在住者の 出発地アンケート調査



富山県は観光地や観光資源が多く、富山駅や高岡駅のような交通結節点をハブとして各所に移動できますね。

**酒井** 複数の交通機関をスムーズに利用していたり、取り組みも進めています。例えば、新幹線開業後、交通事業者の連携・協力により、鉄軌道とバスの「周遊乗り放題きっぷ」を県の東部・中央・西部と3エリアに分けて販売しています。交通事業者のほか、富山県と石川県の連携による「北陸トライアングルルートきっぷ」なども観光客に人気があります。

——鉄軌道以外の地域交通についてはいかがでしょうか。

**酒井** 各地域で路線バスも多くの系統で運行されており、住民の生活の足を担っています。しかし、富山県はマイカー保有率が高く、路線バスは利用者の減少で厳しい局面にあります。引き続き、国の支援制度や県の支援により、持続可能となるようサポートしていきたいと考えています。

観光バスについては、新幹線開業前から実証的な運行を行うなど、準備を進めてきました。県内には、魅力的な名所や資源も多く、新幹線駅からそうした場所

へアクセスする「富山ぶりにバス」「世界遺産バス」などがその一例です。また、北陸新幹線の新高岡駅と、石川県の七尾や和倉温泉とを往復する「わくライナー」を運行し、隣県までエリアを広げています。実際、新幹線開業後はこうした観光路線バス需要も増えています。

観光地を周遊するルートに完成形はなく、事業者にはあらゆる可能性を検討していただきたいと思っています。しかし、交通事業者のみでは実現が難しいケースもあり、県が実証実験や企画切符など利用促進策への支援を行い、事業化に結び付けていただければと考えています。

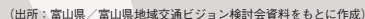
——現在、空港はどのような位置付けで取り組みを推進されていますか。

**酒井** 富山きとときと空港では国内線は羽田と札幌へ就航していますが、新幹線開業後は、羽田便の利用客が約4割減少し、厳しい状況です。しかし、今は羽田空港経由で国内各地や海外の主要都市に簡単に乗り継いで行けるという飛行機の利点もあります。

空港は、富山県の経済、観光、交流人口の拡大等に欠くことのできない社会基盤であり、引き続き、利用促進や航空ネットワークの維持・拡充に取り組んでいます。飛騨・高山地域のほか、新幹線で近くなった長野県などにもエアポートセールスを拡大していきます。

国際線はソウル・上海・台北・大連の

「新たな成長期を迎えた富山地鉄・万葉線」



今、国を挙げて地方創生が謳われている。ですが、昨年10月に、富山県版の総合戦略「とやま未来創生戦略」を策定しました。新幹線の開業効果を一過性のものにならず、しっかりと持続させ、富山県の新たな発展、飛躍につなげていくこととしています。そうした中で、基盤となる地域公共交通を充実していくことが地域の体力強化や魅力向上につながります。利便性が高く、持続可能な地域交通ネットワークの形成を目指していきたいと思っております。